岡山 流産、死産経験者集う会10年

不育症の悩み共有、前へ

出産に至ったケースも

流産や死産を繰り返す不育症の経験者が集う「ママとたまごの会」（愛称・ママたまの会）が、岡山県不妊専門相談センター（岡山市北区鹿田町、岡山大病院内）に発足して今年で10年。誰にも相談できない悩みを打ち明けられる〝心のよりどころ〟として互いに励まし合い、出産に至ったケースもある。（木村友美）

不妊治療歴6年の女性（41）＝大阪府＝は、岡山市に住んでいた2013年ごろから、同会に参加している。約20回に及ぶ体外受精と3回の流産という「つらい気持ちを分かち合ってきた」と打ち明ける。

このほど開かれた会合で、妊娠5カ月を迎えたことを切り出すと、わがことのように喜ぶ参加者に取り囲まれた。「みんなが支えてくれたおかげ」と声を震わす女性。その目から、とめどなく涙があふれた。

茶話会形式

同会は07年5月に発足。当初はアロマせっけん作り、たこ焼きパーティーといった交流行事を行っていた。「ゆっくり話したい」との声を受け、12年から茶話会形式の会合（年3回）に切り替えており、これまでに延べ約80人が参加している。

「つらいのは自分だけではない」「本音を話せる場所」。流産、死産は積極的に知らせる内容ではないため、誰にも言えず悩んでいる人は多い。会で聞いたことは口外しないのがルール。心にふたをすることなく思いを口にすることで前向きな気持ちになれる人が多いという。

会合では、治療費や、妊娠・出産に対する複雑な思い、夫との関係などさまざまな話題が持ち上がる。専門的な知識は、同センターの助産師、生殖医療相談士らが提供する。事務局を担当する片岡久美恵・岡山大大学院保健学研究科講師は「不育症は医学的治療はもちろん、心のケアも注目されている」と言う。

グループ別

ただ、つらい経験は同じでも、妊娠を考えている人、子育て中の人とでは悩みが異なる。「妊婦を見るだけでつらい」「友人の妊娠、出産を知っても素直に喜べない」。出産経験者もその気持ちが分かるだけに、会合で本音を明かせないことがあったという。

このため、今年の会合から「妊娠を考えている」「妊娠中、子育て中」のグループ別開催に改めた。多くの人が参加しやすいよう、従来の平日開催を土、日曜日とすることも検討中だ。

片岡講師は「参加者の要望をくみ取りながら、安心して話せる場として、末永く続けていきたい」と話している。

会員登録は無料。現会員は136人。次回会合は5月に開く予定。問い合わせは同センター（086－235－6542）。

ママたまの会に参加した経緯や近況報告をするメンバー。参加者のプライバシー厳守が前提になっている

ズーム

不育症　流産、死産、早期新生児死亡を繰り返す状態。子宮形態異常や内分泌異常、血液凝固異常などが原因で、適切な検査と治療によって8割以上が出産可能とされる。

2017年（平成29年）3月13日（月曜日）　山陽新聞夕刊